

金融機関の競争が新規参入企業の廃業率に 与える影響に関する研究

名古屋大学大学院経済学研究科

大鐘 雄太

概要

本研究では、金融機関の競争が企業の業績に与える影響についての研究の一環として、金融機関の競争が新規参入企業の廃業率に与える影響について分析を行った。この研究の背景には、金融機関の競争が企業と金融機関のリレーションシップの構築を促進するか阻害するかについて、数多くの対立する意見が報告されていることが挙げられる。

金融機関の競争がリレーションシップの構築を促進すると主張する研究は、金融機関の競争が激しくなると、各金融機関は他の金融機関との差別化の手段として、企業とのリレーションシップを強めるという考えに基づいている。一方、金融機関の競争はリレーションシップを阻害すると結論づけている研究は、金融機関の競争が激しくなると、取引企業を長期にわたって囲い込むことが難しくなるため、金融機関は企業とのリレーションシップの構築に消極的になるという理論に立脚している。

以上の結果を受けて、本研究では、企業と金融機関のリレーションシップの重要性を示すための指標として、廃業率を採用し、金融機関の競争が新規参入企業の廃業率に与える影響について実証的に分析した。この分析の目的は、次の2点である。第1に、金融機関の競争が新規参入企業の廃業の回避にどのような影響を与えるかについて明らかにすることである。第2に、新規参入を含めたすべての中小企業を対象にした場合、金融機関の競争が企業の救済確率に与える影響は、新規参入企業のみを対象にした上記のケースと比べて、どのような違いが現れるのかについて明らかにすることである。

分析の結果、金融機関の競争は新規参入企業の廃業率を高めるが、その傾向は企業年齢の上昇とともに逆転し、成熟企業にとっては金融競争地域に属する方が、金融機関に救済される確率が高くなることが明らかとなった。

JEL 分類コード : G33, G21, M13

キーワード : 金融機関の競争、廃業率、リレーションシップバンキング